



株式会社 F Cホールディングス

6542 東証スタンダード

2024年6月期 第3四半期決算説明資料

代表取締役社長 福島 宏治

基本は技術

目次

－当社グループの編制－

1. 第3四半期決算報告

2. 期末の業績予想（配当の修正）

－資本市場における評価の現状認識－

3. 成長戦略

4. 事業トピックス

－当社グループの編制－

1.第3四半期決算報告

2.期末の業績予想（配当の修正）

－資本市場における評価の現状認識－

3.成長戦略

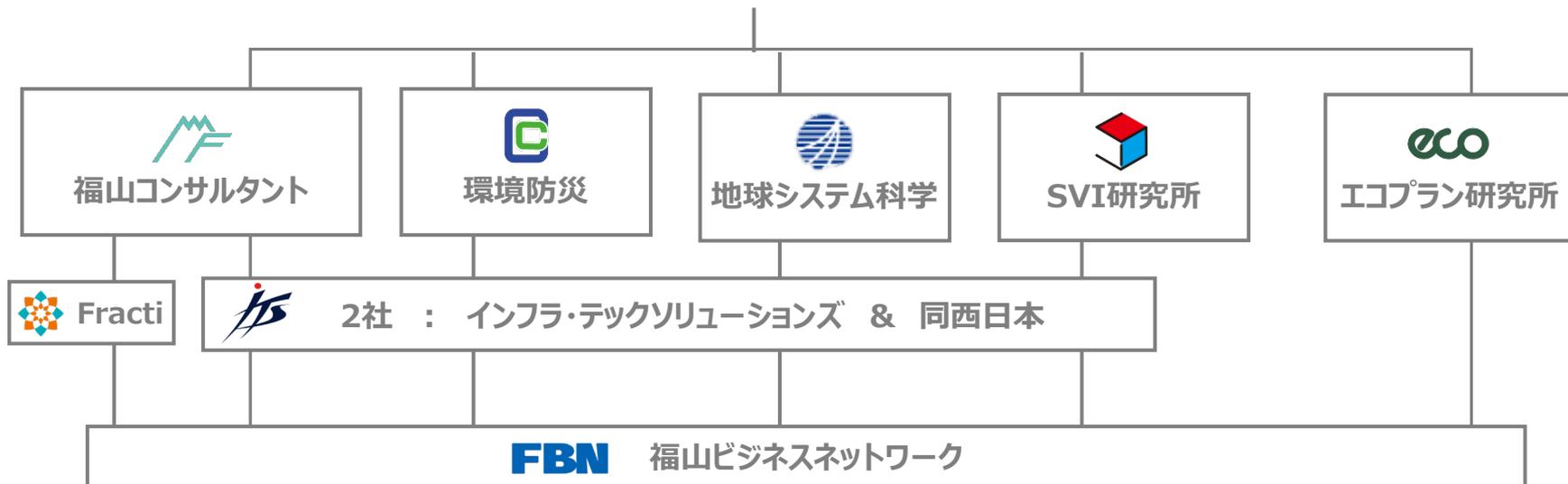
4.事業トピックス



当社グループの編制

- 持株会社 株式会社FCホールディングス 資本金：4億円
上場市場：東証スタンダード（証券コード6542）
- 主要事業：建設コンサルタント事業（サービス業分類）（1949年3月創業：75周年）
- グループ会社数：10社（連結決算対象法人7社）
- 国内主要7拠点、海外2拠点 事業場総数31
- 従業員数：グループ正社員393名（他契約社員124名）

FCホールディングス



1.第3 四半期決算報告



1.①第3四半期決算報告 PL

総受注量△1.3%。売上高△0.6%、経常利益+1.7%、純利益+16.2%

◆生産性は向上してきているが、発注遅延（着手遅延）の影響もあり売上高が減

	FY2023 第3四半期 (百万円)	FY2024 第3四半期 (百万円)	増減	
			(百万円)	(%)
総受注高	11,738	11,588	△150	△1.3
(4Q以降への繰越残高)	5,245	5,206	△39	△0.7
売上高	6,420	6,381	△38	△0.6
営業利益	758	777	18	2.4
経常利益	764	777	12	1.7
特別利益	0	220	220	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益	546	635	88	16.2

※本表では表示桁未満の端数調整があります

1.②第3四半期決算報告 受注・売上高

国内期中受注量は減少、繰越業務量は前期同程度を確保

◆国内外別 受注高 売上高 (百万円)

		FY2023 第3四半期	FY2024 第3四半期	増減
国内	受注高 (期中受注)	6,616	5,495	△1,121
	売上高	5,994	5,958	△36
海外	受注高 (期中受注)	△46	616	662
	売上高	426	423	△2

◆分野別 売上高 (百万円)

	FY2022 第3四半期	FY2023 第3四半期	FY2024 第3四半期
社会インフラ、 防災	2,202	2,153	2,179
環境、都市・ 地域創生	1,279	1,046	1,078
モビリティ形成	3,055	3,220	3,124
合計	6,537	6,420	6,381

◆国内期中受注量の減
・売上高も若干減少

◆海外期中受注量の回復
・売上高は前年同期未達

◆繰越業務量
・第4四半期以降への繰
越業務量は前期並み

◆分野別売上高
・大きな変動はない

1.③第3四半期決算報告 BS

健全な財務水準を維持して期首計画どおりに推移中

(単位：百万円)

科 目	FY2023 (第3四半期末)	FY2023 期末	FY2024 (第3四半期末)	対 前期末比
資産の部	11,622	9,021	12,040	3,018
流動資産	6,428	3,868	6,946	3,077
現金及び預金	1,553	1,630	1,562	△68
その他	4,875	2,238	5,384	3,146
固定資産	5,194	5,153	5,094	△59
負債の部	5,081	2,159	4,620	2,460
流動負債	4,149	1,856	4,347	2,490
短期借入金	2,450	650	2,550	1,900
その他	1,699	1,206	1,797	590
固定負債	931	302	273	△29
長期借入金	650	0	(注) 159	159
その他	281	302	113	△189
純資産の部	6,541	6,862	7,420	557
資本金	400	400	400	-
その他剰余金	6,141	6,462	7,020	557
総 資 産	11,622	9,021	12,040	3,018

流動比率159.8%

FY2023 (第3四半期末)	FY2023 期末	FY2024 (第3四半期末)
154.9%	208.4%	159.8%

固定比率68.7%

FY2023 (第3四半期末)	FY2023 期末	FY2024 (第3四半期末)
79.4%	75.1%	68.7%

自己資本比率61.6%

FY2023 (第3四半期末)	FY2023 期末	FY2024 (第3四半期末)
56.3%	76.1%	61.6%

(注) 従業員持株会支援信託ESOP導入に伴う信託口に対する債務保証額159百万円 (連結財規)

1.④第3四半期決算報告 CF

子会社の保険契約の見直し収入以外は期首計画どおりに推移中

- ◆営業CF：契約工期到来業務（大半は3月工期末）の回収は例年どおり4月の計画
- ◆投資CF：買収子会社の保険契約見直しによる返戻金収入の増加
- ◆財務CF：営業CF相当額の運転資金調達（短期）による増加

(単位：百万円)

	FY2023 第3四半期	FY2023 期末	FY2024 第3四半期	FY2024 期末（見込み）
税引前当期純利益	764	1,210	997	1,210
営業キャッシュ・フロー	△1,940	619	△2,132	620
投資キャッシュ・フロー	△131	△161	157	120
財務キャッシュ・フロー	1,667	△785	1,907	△670
現金及び現金同等物の増減額	△404	△327	△68	70
現金及び現金同等物の期末残高	1,553	1,630	1,562	1,700

2. 期末の業績予想（配当の修正）



2.① 期末の業績予想（配当の修正）

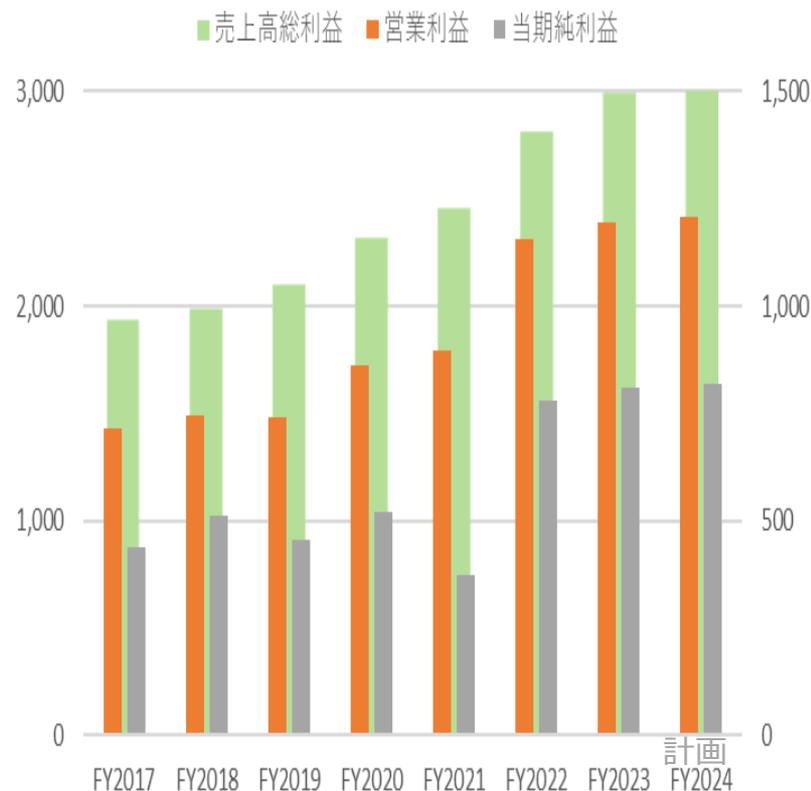
期首業績予想に修正はありません

- ◆ 第4四半期期間の売上高と海外分野稼働率の向上が計画達成のポイント
- ◆ 官公庁、鉄道・高速道路会社、JICA等の契約が大半につき為替の影響はない

(単位：百万円)

	FY2023 実績	FY2024 計画	対前期増減	
売上高	8,566	8,600	+34	+0.4%
営業利益	1,194	1,210	+16	+1.3%
経常利益	1,202	1,210	+8	+0.7%
当期純利益	808	820	+12	+1.5%
営業利益率	13.9%	14.1%	—	+0.2 ポイント

利益の推移（百万円）

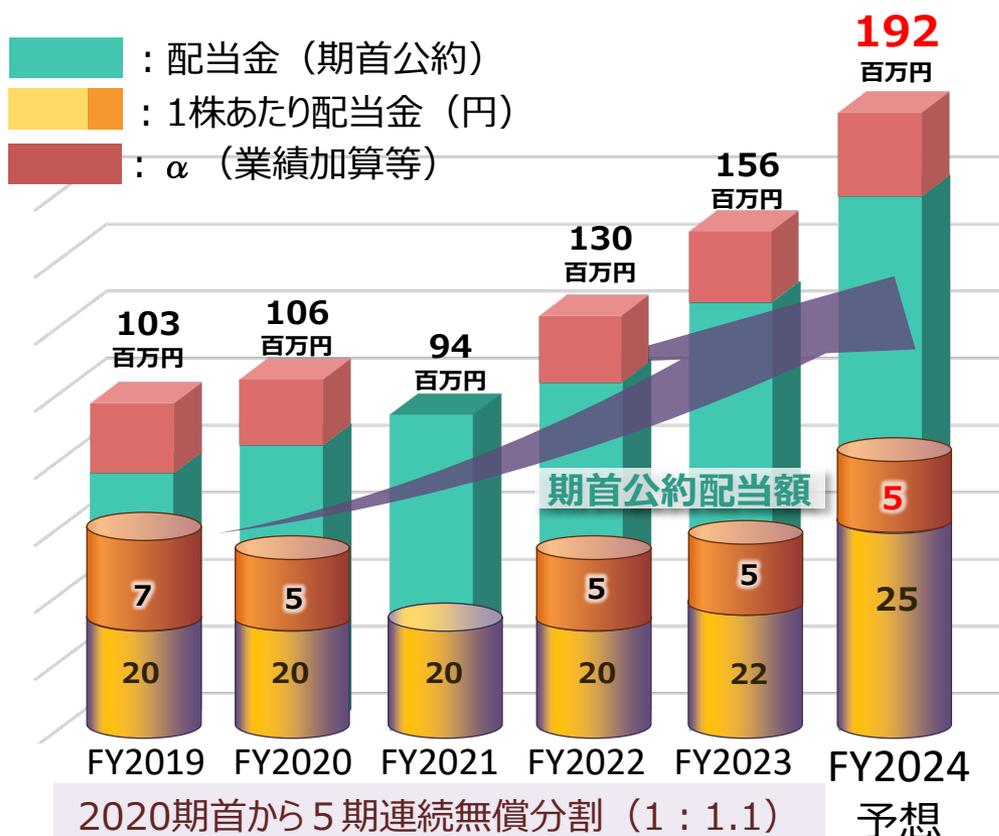


2.② 期末の業績予想（配当の修正）

期末配当の 5円増配（25円 ⇒ 30円）

◆ 金銭配当の基本的な考え方は継続

◆ 配当金の推移



◆ 1株配当金の増額

・ 25円 ⇒ 30円

◆ 株主配当金総額

・ 156百万円 ⇒ 192百万円

◆ 株式分割は実施しない

・ 5期連続で実施してきた翌期首1：1.1の株式分割は実施しない

－前段： 当社グループの編制－

1. 第3四半期決算報告

2. 期末の業績予想（配当の修正）

－資本市場における評価の現状認識－

3. 成長戦略

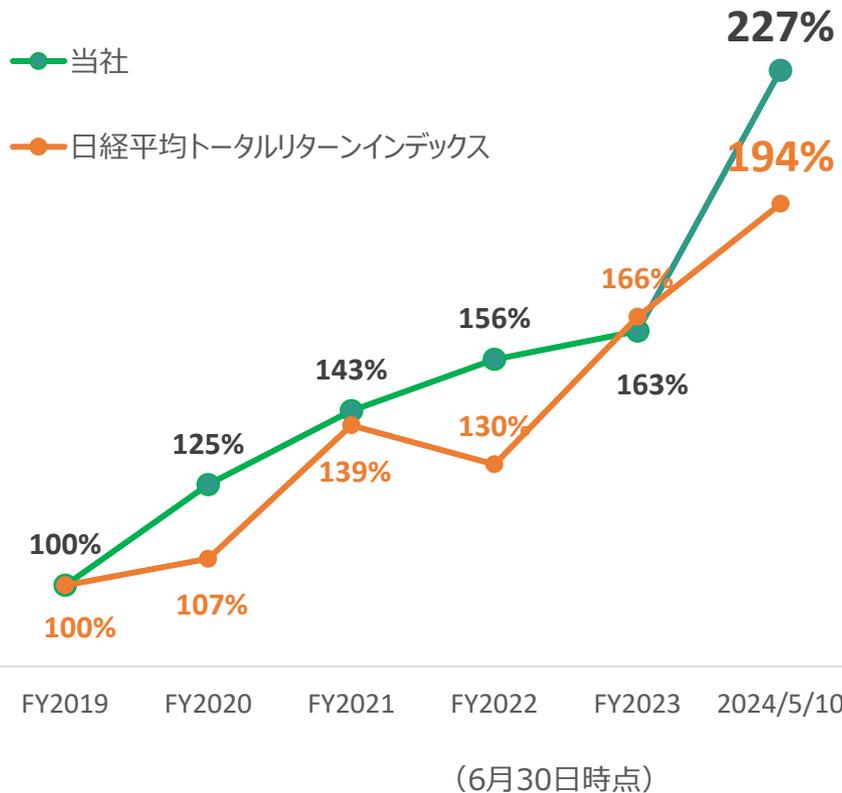
4. 事業トピックス



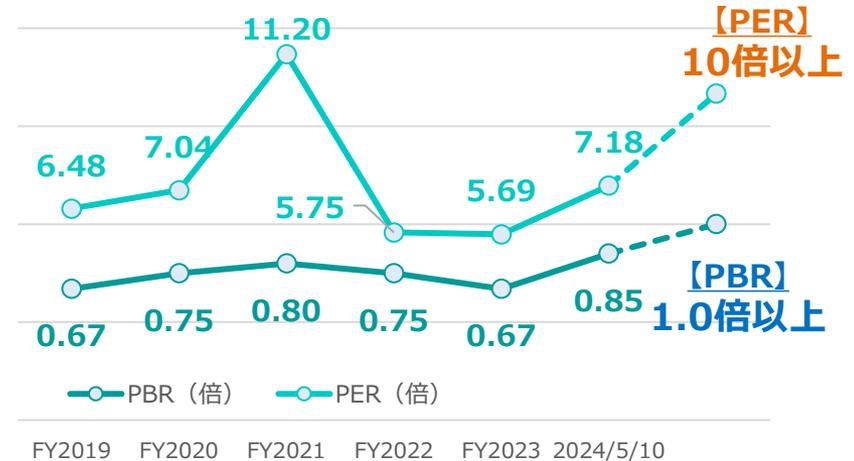
当社グループの現状① 収益性と資本コスト指標

- ◆TSR(株式総利回り)はベンチマーク指標を超えて推移中
- ◆ROEは10%以上を継続しているがPBRは1.0倍割れの状態にある
- ◆総資産の93%は生産活動に使用中。自己資本比率は公共入札参加資格の維持に必要な水準を維持。生産設備、運転資金以外の借入はない

株主総利回り



PBR・PER



資本コストの諸元

	FY2019	FY2020	FY2021	FY2022	FY2023
売上高純利益率	6.2%	11.6%	4.5%	9.1%	9.5%
総資産回転率	1.2回	0.8回	0.9回	1.0回	1.0回
財務レバレッジ	1.37	1.91	1.80	1.48	1.32
ROE	10.2%	17.7%	7.1%	12.9%	11.8%

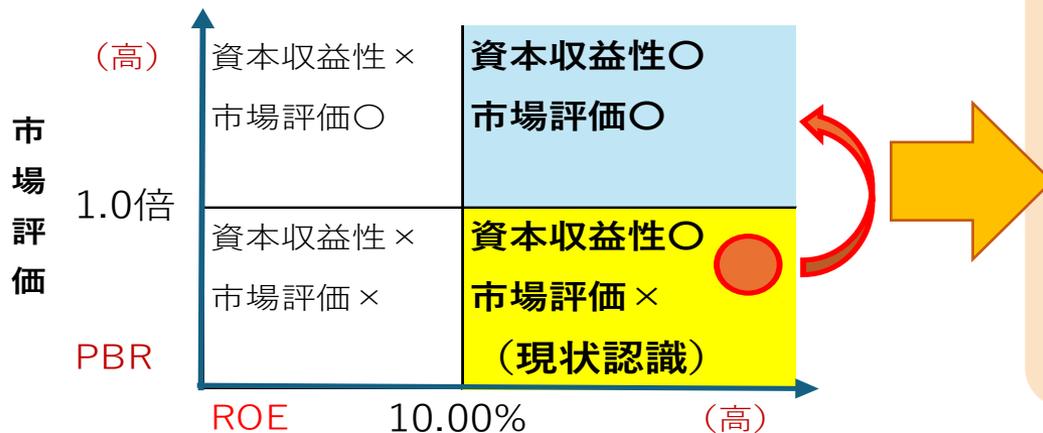
当社グループの現状② 資本収益性と市場評価

- ◆ 営業利益率、ROEともに10%以上を持続中
- ◆ PBR1.0倍以上の達成にはPER向上が必要
- ◆ PER向上につながる成長戦略投資とエンゲージメントの強化

目標指標（成長性・効率性）

売上高成長率	5%/年平均
営業利益率	10%以上
ROE	10%以上
売上高・研究開発費率	5%以上
株主総利回り	中長期的な向上

▶ マトリクス評価【低い市場評価】



市場評価向上施策

- ① ROE 10%超水準の維持
- ② PERの向上施策の強化
 - ・ 人財投資
 - ・ 知財投資
 - ・ 生産財投資
 - ・ IR強化
 - ・ 規模拡張投資
 - ・ 還元性向の向上

資本収益性

3.成長戦略



3.①成長戦略

経営計画のキーワードは「再定義」

第5次中期経営計画 2022年7月～2028年6月

Redefinition 「再定義」 (前半3期のキーワード)

Strong Culture

「基本は技術」

経営理念

Mission

新しい価値の創造により**社会の持続的発展**に貢献します

目指す姿

Vision

1. 我々は高い技術力を基本とした事業活動で**顧客満足**を達成します
2. 上質な顧客価値の創造により**利益**を生み社会と株主に対する責任を果たします
3. 全従業員が仕事に誇りをもち仕事を通じて**人間的成長と幸福**を達成します

行動指針

Rule

1. 多様な分野の専門技術と連携し社会課題の解決に向けて**挑戦**を続ける
2. 健全で透明性の高い**誠実な経営**を持続する

Founder's Consultants Holdings Inc.

FCホールディングス

新しい価値を創造する専門家集団

上場30年目を迎える集団として、企業理念にそって、組織、ひと、働き方、事業、戦略全般の「再定義」をすすめて100年企業へ進化する。

3. ②成長戦略

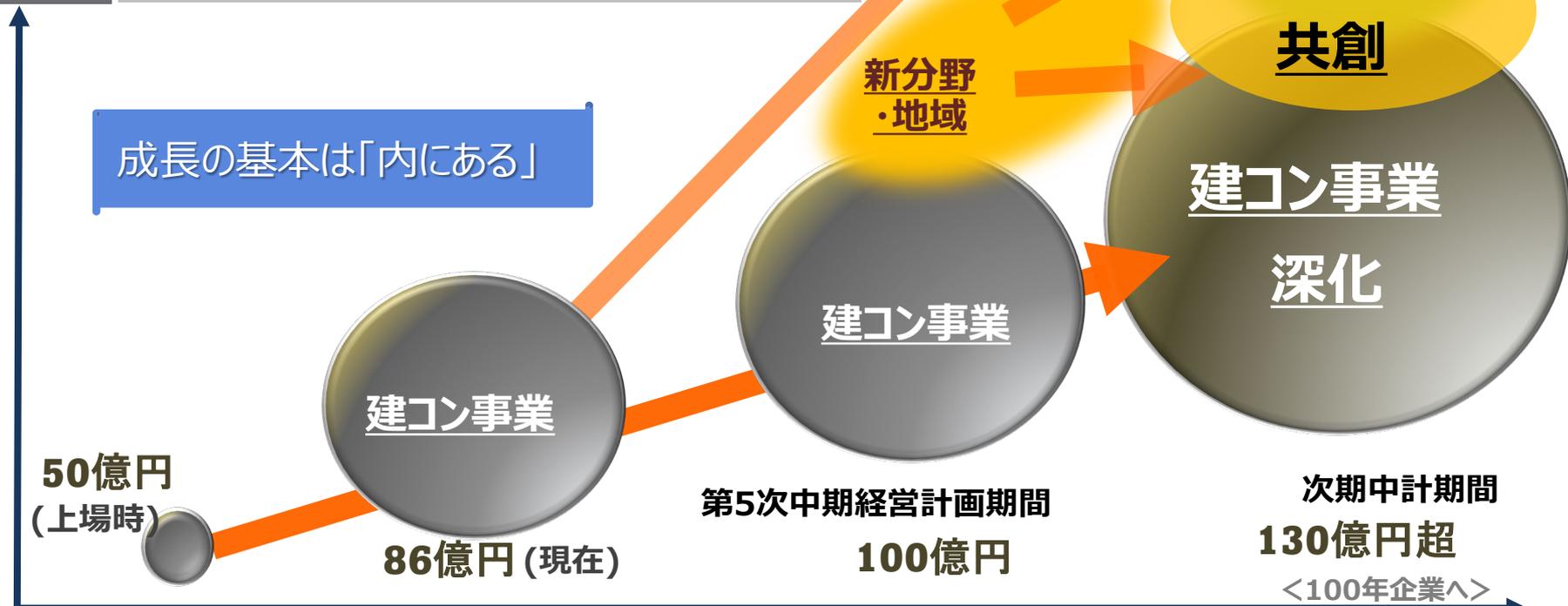
経営計画：収益性の継続&規模拡大

第5次中期経営計画

2022年7月～2028年6月

【3つの投資戦略】

戦略3	M&A推進を中心戦略とした規模・市場の拡張
戦略2	研究開発、他社連携を核とした共創戦略の強化
戦略1	既存事業の深化（75年の強みに磨きをかける）



3.③成長戦略

戦略的投資の対象と予算

- ◆最重要投資：人的資本投資。採用、育成、働きやすさ、自己実現度、報酬水準
- ◆投資の基本姿勢：投下資本収益率によって評価

投資対象		内容例	効果遅行度	予算枠
営業 キャ ッ シ ュ フ ロ ー + 調 達	人的資本投資	①採用強化：新卒20名・キャリア10名、エルダー雇用、ジョブリターン制度、副業制度	～6年	5億円
		②職場環境整備：非執務空間整備、研究開発拠点集約		
		③複層的報酬制度：金銭報酬、株式報酬、企業年金、の拡充		
		④スキリング、リススキリング：資格取得支援、学位取得支援、国内外研修		
		⑤事業化チャレンジ制度：新規事業インキュベーション制度		
	知的資本投資	①新規事業創造：社会価値創造研究所（SVI）、技術研究会	～3年	5億円
		②グループ内共創：グループ連携会議、知財集約法人の設立（'24/03組成予定）		
		③グループ外共創：ESG事業法人（'24/02）、AI技術法人、下水道関連		
		④特許取得：特許取得技術、社内秘匿技術の選別		
	生産資本投資	①効率化：DX推進室の強化（ソフト開発、機器の積極導入）	～1年	
②高度化：多機能計測装置の導入				
③快適化：管理基幹システムの高度・省力化				
CG資本投資	①内部統制：自律的システム整備、社外窓口整備、計画説明会、社長定期意見交換会	～1年	-	
	②IR/SR：全取締役によるエンゲージメント強化、頻度向上			
自己資本	拡張資本投資	①M&A先選定リスト作成チーム	～6年	20億円
		②アフターM&A伴走チーム、共創チーム		
	財務資本投資	①健全かつ適正なバランスシートの確保	～	短期25億円
		②運転資金は1年以内の短期調達で継続（期末無借金）		

3.④成長戦略の内容【戦略1：人的資本投資Ⅰ】

採用強化 人財育成 活躍環境整備 の3サイクル

①採用強化

人的資本増強に向けた取り組みサイクル



生産性向上

従業員一人当たり
売上総利益

1位

(10.7百万円/人)

※数値は福山コンサルタント実績値
建コン部門売上上位50社比較
(日経コンストラクション 2024年4月号より)

【 取り組み 】

採用

①採用強化

- **新卒採用強化**
積極的なインターンシップ、広報強化等
- **中途採用強化**
紹介サービス活用等
- **多様な人材採用**
ジェンダー、スキル、国籍等
- **定年退職者の雇用延長**
- **人材確保に係る各種制度の整備**
 - ・アルムナイ制度
 - ・内発的創業（イントレプレナーシップ）支援

【 成果 】

- **新卒採用**
今期実績 **22名** ⇒ 来期（目標）同数以上
- **中途採用**
今期実績 **7名** ⇒ 来期（目標）同数以上
- **女性総合職採用割合**
今期 **45%**

福山C入社式⇒



3.⑤成長戦略の内容【戦略1：人的資本投資Ⅱ】

②人財育成 ③活躍環境整備

育成

②人財育成

- **多様な社内研修制度・実践**
リーダーシップ、専門技術、DX、
ロジカルシンキング等
- **資格取得支援制度の充実**
資格取得時の手当・一時金支給
資格取得勉強会開催 等
- **学位取得支援**
博士号、MBA等
- **多面的人事考課でのインゲージメント強化**
教育訓練計画、職務記述書

「技術士」とは 技術分野における専門的な知識と能力
を証明する国家資格

- **技術士資格取得率 99.5%**
※技術士数(延数)/技術者数
取得率 第3位
※建コン部門売上上位50社比較
(日経コンストラクション 2024年4月号より)
- **学位取得者数 今年度 1名** (予定)
- **大学への講師派遣 今年度 3名**

活躍

③働きやすい・働き甲斐のある制度と職場環境

- **多様な報酬制度の充実**
給与水準の底上げ
従業員持株会支援信託ESOPの導入
- **多様で柔軟な就業制度・運用の充実**
育児休暇制度、地域限定制度
- **社員ニーズの把握とビジョン共有**
社長意見交換会、支社長意見交換会、
若手社員面談
- **社内コミュニケーションスペースの創出**
- **「健康経営」の促進**
人間ドック制度の導入、残業時間縮減

- **社員定着率（入社3年以内） 96%**
- **給与水準**
対前期比 **+3.5%** ⇒来期（計画）+4%
- **従業員持ち株会参加率 43.1%***
※管理職以上対象
- **育児休暇取得率**
今期 男性**80%**／女性**100%**
- **女性総合職採用割合**
今期 **47%（9名/19名中）**
- **社内コミュニケーションスペース**
今期 **各拠点事業場にて整備済**

※数値は福山コンサルタント実績値

3.⑥成長戦略の内容

【戦略2：共創戦略投資】

共創戦略による主要3ターゲット（中計:前期3年）

	【共創】	【成果】	【事業分野】
インフラメンテナンス トータルサービス	<ul style="list-style-type: none">■ 社外連携<ul style="list-style-type: none">・理化学研究所等:ランスビュー■ 社内連携<ul style="list-style-type: none">・福山コンサルタント:モニタリング技術等・地球システム科学:非破壊計測技術・環境防災:材料試験・検査技術・SVI:AI診断・解析技術	<ul style="list-style-type: none">■ インフラメンテナ ンス大賞(国)■ 国交省点検支 援技術性能カ タログ	<ul style="list-style-type: none">■ センサー、AI技術を用いたモ ニタリングによる地域・分野 包括管理■ 非破壊調査を入り口にイン フラに関するトータルサービス 提供
次世代都市・ 交通ソリューション	<ul style="list-style-type: none">■ 社外連携<ul style="list-style-type: none">・AI解析会社・ITサービス大手■ 社内連携<ul style="list-style-type: none">・福山コンサルタント:交通SIM技術・SVI:AI解析技術・Fracti 合同会社:MaaSコンサル	<ul style="list-style-type: none">■ デジタル庁DX サービスマップ■ 東京都スマート 東京先進事例 創出事業	<ul style="list-style-type: none">■ デジタル空間での都市・交通ソ リューション(SaaS型)+コン サルティングサービス■ 仮想空間でシミュレーションを 実施し、現実社会に様々な サービスを提供
公共・民間施設への 環境創生ビジネス	<ul style="list-style-type: none">■ 社外連携<ul style="list-style-type: none">・株式会社レーバンクリーンエナジー・株式会社トッププランニングJAPAN・JICA中小企業支援の各企業■ 社内連携等<ul style="list-style-type: none">・福山コンサルタント、エコプラン研究所・響灘ビオトップ共同事業体	<ul style="list-style-type: none">■ JICA中小企 業・SDGs支援 事業■ 環境省「自然 環境サイト」 OECM	<ul style="list-style-type: none">■ OECM ※認定に向けた公共 や民間施設へのアドバイザー■ 環境事業コンサルタント及び環 境創生事業 <p>※OECM：保護地域以外での生物多様性 保全場所認定</p>

3.⑦成長戦略の内容【戦略3：M&A投資】

◆M&A戦略による拡張志向領域

- ・既存事業領域：河川分野、上下水道分野（共創可能性が高い）
- ・新規事業領域：社会科学分野、IT分野（技術親和性が高い）
- ・未展開地域：中京地域、日本海側地域（市場ニーズは高い）

◆対象の領域・地域



◆事業拠点白地域



※投資予算規模：20億円

3.⑧成長戦略の内容

【PR・IRの強化】

- ◆PR：業界としての認知度向上のための広報（業界全体の平均値向上）
- ◆IR：丁寧なIR活動（対面・Web）活動、投資家面談頻度の増加、所管部署の体制強化

①PR（業界全体での活動）

■落語家柳家小きん師匠「土木×落語」の講演

- ・市民への建設コンサルタント事業分野の理解促進
- ・学生向けリクルーティング効果も。
- ・右:柳家小きん師匠 中央:当社女性社員



▲九州建設フォーラム(10月)

②IR活動（個別活動）

■投資家等との積極的な対話

- 投資家向けのIR活動の強化
 - ・定例IRの継続（2Q、4Q） + 3Q説明
 - ・ネット活用IRサービスの利用
 - ・合同IRイベントへの参加
- 個別投資家との面談・対話の強化
 - ・福岡本社以外での相対面談も可能（専任チーム組成）
- 対話内容の適時フィードバック

■開示情報の強化

- HPでの発信情報の強化
 - ・任意開示情報の逐次発信
- 各種媒体等を活用した情報発信頻度の向上
- 情報内容(定量、定性)の充実
 - ・資本コストや株価を意識した経営内容の開示促進

4.事業トピックス



4.①事業トピックス インフラメンテナンス分野

急増するインフラ施設の老朽化対策市場に対しメンテナンス事業会社の設立等

■グループ各社の保有する非破壊検査技術とAI等の先端技術を融合したサービス展開

具体的には、福山コンサルタントが手掛けている国立研究法人理化学研究所発の完全非破壊塩分計測技術 RANS- μ 技術、地球システム科学が得意とするオーリス・ミラ等の非破壊検査技術、環境防災が保有するコンクリートや鋼材等の非破壊検査及び物性試験による ASR 等の劣化診断技術、当社グループの研究機関である SVI 研究所が開発した AI 技術を活用して事業展開。

＜グループ各社の関連研究開発成果例＞

■国交省「中小企業イノベーション創出推進事業 (SBIR)」採択 (2024.1)

子会社が設立に参画したランズビューの技術（中性子線を活用した塩分濃度非破壊検査技術）が、先端技術の社会実装推進を目的とした補助対象事業として採択

■日本道路会議優秀賞 (2023.11)

「道路橋の統一的LCC算定手法に関する検討」

- 道路の点検やライフサイクルコストに関する要領策定
- 国の研究機関との共同研究



■インフラメンテナンス大賞【国土交通大臣賞】 (2024.1)

理化学研究所等とともに実用化に向けた取り組みをしている非破壊計測技術が国土交通大臣賞を受賞



◀インフラメンテナンス大賞表彰式

1月18日首相官邸で開催。
斉藤国土交通大臣（写真真ん中）より表彰

4.②事業トピックス

次世代都市交通分野

子会社（福山C）と日本電気(株)（NEC）で防災DXサービス開発で業務提携

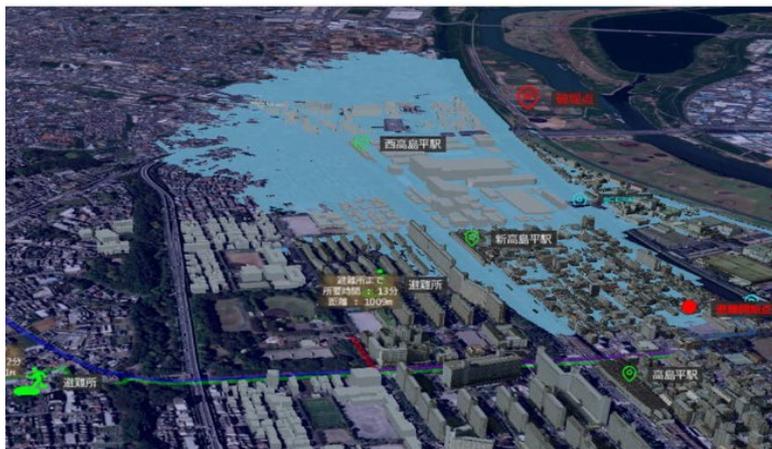
■ NECが有するデジタルプラットフォーム技術とFCCの防災リスク評価技術、3D都市モデルのユースケースで培った技術（Project PLATEAU）などを融合させて防災DXサービスを市場に提供

具体的には、住民の防災意識向上を実現する「3D都市モデルを活用した水害・津波防災教育コンテンツ」や、発災時の災害情報の見える化と災害リスク評価分析をデジタルプラットフォーム上で実現する「高度広域防災プラットフォーム」、マイナンバーおよび顔認証技術を用いた「避難所運営支援サービス」などを開発し、2025年4月のサービスインを目指す。

<FCCが提供するコンテンツ例>

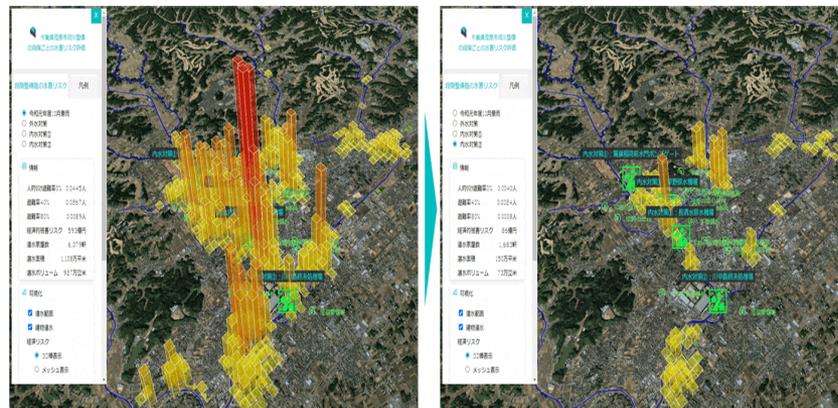
■ 3D都市モデルを活用した「水害・津波防災教育コンテンツ」

浸水範囲に応じた避難ルートの検索システムとARアプリケーションを開発し提供（例：板橋区）



■ 災害リスク評価分析ツール

河川改修工事の整備段階ごとの水害リスクの低減効果を可視化したツール



水害による経済的リスク(河川整備の前と後)

4.③事業トピックス 環境創生分野

グループ全体で積極的にSDGsの取り組みを推進中

①「北九州市SDGs未来都市アワード」にてSDGs大賞を受賞

- 受賞名：「SDGs大賞」（市民部門）
- 活動名：ホップを通じた地域SDGs事業
子会社2社（EP,FCC）が参加する響灘ビオトープ共同事業体が主体となった、ホップを活用した地域循環型の取り組みの推進が評価された

● 市民が育てた地元産ホップを使った地域資源循環の活動を推進



②グリーンインフラ・ネットワークジャパン全国大会にて「優秀賞」・「奨励賞」受賞

- 優秀賞：北九州市の地域SDGsの活動
- 奨励賞：茨城県守谷市における7年間に及ぶグリーンインフラの取り組み
グリーンインフラの取り組みが全国的にも高く評価された

③カンボジアでカシューナッツ殻を活用したバイオマス燃料化事業に参画

- 当該事業会社の設立に共同参加
- カンボジア工業科学技術革新省と覚書締結
JICA調査等の外部コンサルタントとして、当該事業に参加してきましたが、本格稼働させるため、共同で事業会社を設立し、カシューナッツ加工事業及びカシューナッツ殻を活用したバイオマス燃料化事業をスタート



稼働中のカシューナッツ加工工場

最後までご視聴頂きましてありがとうございました。

ご質問は別掲の窓口まで問い合わせください。

「基本は技術」を企業集団の**「Strong Culture」**として、

人々の安全と安心を守り

社会的価値の高い企業体として持続的成長を図ってまいります。

引き続き、倍旧のご支援をよろしくお願い申し上げます。

- ◆当プレゼンテーション資料は、株式会社FCホールディングスおよびそのグループ会社の戦略・経営計画など、歴史的事実でない「将来に関する見通し」を含んでおります。係る将来に関する見通しは、現時点において入手可能な期待・見積り・予想に基づいており、その性質上、これらの期待・見積り・予想はリスクや不確実性を内在しております。従って、当社を取り巻く事業環境、将来の業績、経営結果、財務内容等は、係る将来に関する見通しにおいて明示的または黙示的に示される情報と大きく異なる結果となる可能性がありますことをご承知おきください。当社は、係る将来に関する見通しについて情報を更新または修正して公表する義務を負うものではありません。
- ◆当プレゼンテーション資料は、有価証券の募集・売却、販売、勧誘を目的とするものではありません。投資・その他のご判断にあたり当資料の内容に全面的に依拠することはお控えくださいますよう、お願い申し上げます。

株式会社 FCホールディングス E-mail:ir@fchd.jp TEL:092-412-8300 FAX:092-412-8303